



会社名 武田薬品工業株式会社
代表者 代表取締役社長 長谷川閑史
(コード番号 4502 東証第1部)
報道関係問合せ先 コーポレート・コミュニケーション部
Tel 03-3278-2037

News Release

2012 年 5 月 11 日

12-14 中期計画について ～ “新たなタケダへの変革”の推進と持続的成長のスタート ～

当社は、「革新への挑戦(Innovation)」と「活力ある企業文化の創造(Culture)」を通じて「持続的な成長(Growth)」を達成するという経営方針のもと、真のグローバル製薬企業へと飛躍するための「新たなタケダへの変革」に向けた取り組みを推進しています。

この一環として当社は、2011 年度に、スイスのチューリッヒに拠点を置くナイコメッド社を買収し、欧州全域における事業基盤の強化と成長著しい新興国への販路拡大を果たしました。さらに、2012 年度に入り、米国事業の強化に向けて URL ファーマ社の買収を決定し、日・米・欧・新興国にバランスの取れた事業を展開しています。また、当社の中長期的な成長を確実にする期待の新薬が、各国地域で承認を取得した他、将来の成長の源泉である多くのパイプラインを後期開発ステージに進めることができました。

このたび策定した「12-14 中期計画」では、2 型糖尿病治療剤アクトスの米国での後発品参入後の 2012 年度を起点とした持続的な成長軌道への確実な回帰を実現するために、当社は引き続き、経営方針に基づく戦略を実行してまいります。具体的には、今後の事業を牽引する新興国市場に更なる投資を行い、当社の成長ドライバーとして売上・利益を一層拡大するとともに、当社製品・パイプラインの価値をグローバルで最大化してまいります。また、日・米・欧の先進国市場においては、多様な新製品の早期定着を図り、国内シェア No.1 の堅持と欧米におけるプレゼンスの維持・拡大を果たします。

さらに当社は、将来の成長に必要な研究開発投資を継続することで、画期的な新薬の創出に果敢に挑戦するだけでなく、コスト削減やキャッシュマネジメントを強化し、グローバル企業にふさわしい健全な財務基盤の維持・強化と成長戦略の実行の両立を図ってまいります。

本格的なグローバル化に向けて事業構造が大きく転換する中にあっても、当社は、230 年に亘る歴史の中で連綿と受け継がれてきた「タケダイズム(誠実＝公正・正直・不屈)」を経営の根幹に据え、法令を遵守し、環境や CSR に配慮した経営に取り組んでいきます。

「優れた医薬品の創出を通じて人々の健康と医療の未来に貢献する」という経営理念の実現に向けて、当社は、引き続き全社一丸となって事業に邁進してまいります。

なお、「12-14 中期計画」の概要は、下記のとおりです。

記

1. 「12-14 中期計画」の業績目標 ^{a) b)}

	2011 年度 (実績)	2012 年度 (予想)	2013 年度 (予想)	2014 年度 (予想)
売上高	15,089 億円	15,500 億円	16,300 億円	17,000 億円
研究開発費	2,819 億円	3,100 億円	3,050 億円	3,100 億円
営業利益	2,650 億円	1,600 億円	2,250 億円	2,400 億円
営業利益 ^{c)} 特殊要因 c) 除き	4,145 億円	3,050 億円	3,550 億円	3,600 億円
当期純利益	1,242 億円	1,550 億円	1,500 億円	1,200 億円
EPS	157 円	196 円	190 円	152 円
EPS ^{c)} 特別損益・特殊要因 c) 除き	314 円	241 円	291 円	285 円
EBITDA ^{d)}	4,226 億円	3,450 億円	4,100 億円	4,200 億円

a) 2012 年度以降の為替レートは、1 米ドル＝80 円、1 ユーロ＝105 円を前提としています。

b) 上記予想については、本年 4 月に買収合意しました URL ファーマ社による損益影響(2012 年度の売上高で約 440 億円、営業利益で約 50 億円)を織り込んでいます。なお、企業結合会計等による影響については、買収手続き完了後 1 年以内に会計監査人による監査を経て確定しますので、本影響額は現時点での見通しであり確定額ではありません。

c) 特殊要因: 企業買収などに起因する無形固定資産償却費、のれん償却費、棚卸資産のステップアップ(時価評価による増加部分)に係る売上原価の増加および移転価格税制に係る還付金(ただし、還付金は EPS に対してのみの特殊要因)。

d) EBITDA(特別損益除き): 経常利益に、営業利益にかかる特殊要因(棚卸資産のステップアップに係る売上原価の増加除く)、減価償却費および支払利息を加えて計算しています。

2. 経営方針

私たちタケダグループは、グローバル製薬企業としてのリーダーシップを発揮しながら、「革新への挑戦」、「活力ある企業文化の創造」、「持続的な成長」を追求し、経営理念を実現します。

・革新への挑戦 (Innovation)

最先端の科学と医学における革新に果敢に挑戦し、優れた医薬品を研究・開発し、医療と患者さんのニーズに応えます

・活力ある企業文化の創造 (Culture)

社会の一員として、従業員がお互いを認め合い、協力し合い、タイムリーな意思決定を行うことによって、活力ある企業文化を創ります

・持続的な成長 (Growth)

重点疾患領域を中心に、優れた医薬品の提供を通じて、持続的な企業価値向上を目指します

3. 経営方針を実現するための戦略

●革新への挑戦

・重点疾患領域における競争力のあるパイプラインの構築と確実な承認取得

アンメットメディカルニーズが高く、また、これまでの研究開発の知見と基盤を最大限に活用できる「代謝性・循環器系疾患」「癌」「中枢神経系疾患」「呼吸器・免疫系疾患」「消化器・泌尿生殖器系疾患」の重点疾患領域において、疾患予防と根本治療に貢献する画期的新薬の創出に挑戦します。具体的には、DDU^(注)を軸としたグローバル自社研究ネットワークおよび外部研究機関との連携(オープンイノベーション)を柔軟に組み合わせることで、創薬基盤研究を強化します。また、新興国などでニーズが高いワクチンについても、グローバルでの事業展開を推進します。

さらに、積極的なパイプラインの導入とライフサイクルマネジメントの推進により、競争力のあるポートフォリオを構築するとともに、グローバルでの薬事機能を強化することにより、各国規制当局のニーズにきめ細かく対応し、後期開発課題の確実な承認取得を実現します。

(注)DDU:Drug Discovery Unit

・研究開発生産性の向上

POC&C^(注)の考えに基づき中長期にわたり市場競争力を有するパイプラインを早期の薬効予測などを通じて迅速かつ厳格に見極め、優先順位付けしたパイプラインに経営資源を重点的に集中させ、その価値を最大限に高めることによって生産性の改善をはかります。

(注)POC&C:Proof of Concept & Competitiveness

●活力ある企業文化の創造

優れた人材の育成・獲得と従業員の多様化を推進し、世界中の従業員が、生き生きと働くことのできる企業文化・職場環境を創ります。さらに、グローバルでのコンプライアンスを徹底するとともに、東日本大震災被災地への継続的な復興支援や新興国での医療支援など、良き企業市民として環境やCSRにも配慮した経営を実施します。

●持続的な成長

・新興国における確実な成長の実現

新興国市場において旧ナイコメッド社製品を確実に伸長させることで、新興国の市場伸長率を上回る成長を実現します。ロシア／CIS・ラテンアメリカ・中国においては、優秀な人材の確保や新製品の上市準備に向けた積極的な投資を行い、中長期的な成長ドライバーとして事業基盤の強化に取り組みます。

・日米欧における新製品の早期市場浸透と事業構造の転換

日米欧の先進諸国においては、新製品の市場浸透を早期に行い、これまでの大型成熟品を中心とした製品構成から、アンメットメディカルニーズに応える多様な製品ラインアップによる製品構成にシフトし、コスト削減を進めながら持続的な成長を実現する事業モデルへの構造転換を進めます。

・旧ナイコメッド社の統合のシナジーの最大化

ナイコメッド社買収で獲得した新たな事業基盤に当社製品・パイプラインを継続的に投入することで売上シナジーを最大化するとともに、コストシナジーを確実に実現します。

4. 財務および株主還元方針

当社は、3,000 億円レベルの研究開発投資および製品・パイプラインの獲得など、将来の持続的な成長に向けた投資を継続してまいります。一方で、バランスシートのスリム化を含めたキャッシュマネジメントの強化を一層推進することにより負債の着実な返済を行い、健全な財務基盤の維持・強化に努めます。

株主還元策については、2012 年度および 2013 年度は、1 株当たり配当金 180 円を継続し、2014 年度以降も株主還元重視のもと、安定的な利益配分を行えるよう努めてまいります。

なお、「12-14 中期計画」に関する詳しい内容については、当社ホームページに掲載される関連資料をご覧ください。

http://www.takeda.co.jp/investor-information/presentations-events/index_2576.html

以上